

科目名	聴覚系の構造・機能・病態					授業の種類	演習	必修・選択		必修	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年	前期
【授業の目的・ねらい】 聴覚神経生理学や聴覚系の構造・機能とその病態と障害について理解することができる。											
【実務者経験】											
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚療法を行うために必要な聴覚系器官の構造と機能、および聴覚神経生理学について習得し、その病態を理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚系の基本的な構造と機能を理解し、その障害について概要を国家試験に即した問題に対する正答を導くことで説明することができる。											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	神経系の構造を理解できる。									プリント まとめテスト	
2	シナプス伝達について理解できる。									プリント まとめテスト	
3	少数のニューロン回 反射について理解できる。									プリント まとめテスト	
4	運動系の統合機構について理解できる。									プリント まとめテスト	
5	外耳と中耳について理解できる。									プリント まとめテスト	
6	蝸牛 ① 蝸牛の構造を理解し、説明できる。									プリント まとめテスト	
7	蝸牛 ② 蝸牛の機能について理解し、説明できる。									プリント まとめテスト	
8	聴神経 ① 聴神経の構造を理解できる。									プリント まとめテスト	
9	聴神経 ② 聴神経の仕組みと経路を説明できる。									プリント まとめテスト	
10	蝸牛の変換機構と興奮機構 ① 聴覚の神経伝達を理解できる。									プリント まとめテスト	
11	蝸牛の変換機構と興奮機構 ② 聴覚の特異性について理解できる。									プリント まとめテスト	
12	脳幹神経核 について理解できる。									プリント まとめテスト	
13	聴覚皮質 について理解できる。									プリント まとめテスト	
14	遠心路 について理解できる。									プリント まとめテスト	
15	感音性難聴 について理解できる。									プリント まとめテスト	
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト』第3版 医歯薬出版 『標準言語聴覚療法 聴覚障害学』 医学書院											
【準備学習・時間外学習】 本科目は言語聴覚の根幹を成すものであり、したがって学習者に相応の努力（毎回の予習と復習）が求められる。 そのため授業への集中度をチェックする方策を導入する。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											